

現行計画の取組の評価と総括

環境局環境経済部
温暖化対策課

目 次

1	評価の目的	1
2	取組みの評価	
	（1）評価の期間	1
	（2）取組みの評価方法	1
3	市の取組み及び総括	2
	（1）市の取組み事業の状況	2
	（2）取組み期間における事業の総括	2
4	各部門ごとの取組み評価	
	（1）家庭部門	4
	（2）業務部門	5
	（3）運輸部門	6
	（4）産業部門	7
	（5）その他	8
	（エネルギー転換部門、工業プロセス、廃棄物、森林吸収源対策）	

1 評価の目的

現行の北九州市地球温暖化対策実行計画では、本市の取組み状況について、CO2 排出削減量やエネルギー削減量、再エネ導入促進等の活動指標を用いて、フォローアップ項目の進行管理を行い、計画の改定の際に活用することとしている。今回はフォローアップ項目に加え、計画に掲載する全事業の取組状況を評価し、同計画の改定に活用することとする。

2 取組みの評価

(1) 評価の期間

今回の評価については、事業の実績及び評価が確定している、平成 26 (2014) 年度から令和元 (2019) 年度までとする。

なお、現行計画の最終的な総括については、令和 2 (2020) 年度実績確定後に改めて行う。

(2) 取組みの評価方法

評価は、CO2 削減効果を基本とする (1 次評価)。ただし、CO2 削減の算定 (把握) が困難な事業等については、行政評価における評価結果をもとに、以下の表 1 のとおり、総合的に評価する (2 次評価)。

表 1

分類	評 価				備 考
	2020年度目標を既に上回っている	2020年度目標を上回る見込み	2020年度目標と同程度見込み	2020年度目標を下回る見込みまたは未把握	
1 次評価					
CO2削減効果で評価するもの	A:大変順調		B:順調	C:遅れ	
2 次評価	大変順調		順調	やや遅れ 遅れ	「1次評価」で「C:遅れ」となっているもののうち、行政評価が「大変順調」「順調」とされているものは、事業の取組み自体は着実に進捗しているため、「B:順調」として評価する。
行政評価で評価するもの	A:大変順調		B:順調	C:遅れ	
CO2削減効果及び行政評価の両方において評価指標がないもの	N:評価指標がない				

<行政評価について>

本市では、平成 20 年 12 月に北九州市基本構想・基本計画である「元気発進！北九州」プラン (以下「プラン」という。) を策定しており、プランを着実に推進する仕組みの一つとして、平成 22 年度に「行政評価システム」を導入している。

これは、「計画(Plan)→ 実行(Do)→ 評価(Check)→ 改善(Action)」の PDCA サイクルに沿って、行政自ら事業等を検証し、不断の見直しを行うものである。令和元年度に実施したプランを構成する主な事業について、PDCA サイクルに沿って評価した結果を総括的に示しており、施策の指標、評価、評価理由等を取りまとめるとともに、プランの進捗状況も併せて示すものでもある。

(参照:本市ホームページ「行政評価の取組結果」<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/files/000894961.pdf>)

3 市の取組み及び総括

(1) 市の取組み事業の状況

現行計画策定時は108事業でスタートし、その後の社会情勢や市の状況に応じて、事業完了や統廃合によって、事業の新陳代謝を図りながら、計画目標に向かって取組みを行った。

令和元年度末時点で81事業が継続しており、27の事業が事業完了または事業統廃合となっている。

(2) 取組み期間における事業の総括

現在進行している81事業の総合評価について、表2のとおりとなっており、順調に事業の取組みが推進できている。

表2

評 価		事業数	割合
A	大変順調	11	13.6%
B	順調	55	67.9%
C	遅れ	2	2.5%
N	評価指標がない	13	16.0%
合 計		81	100.0%

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

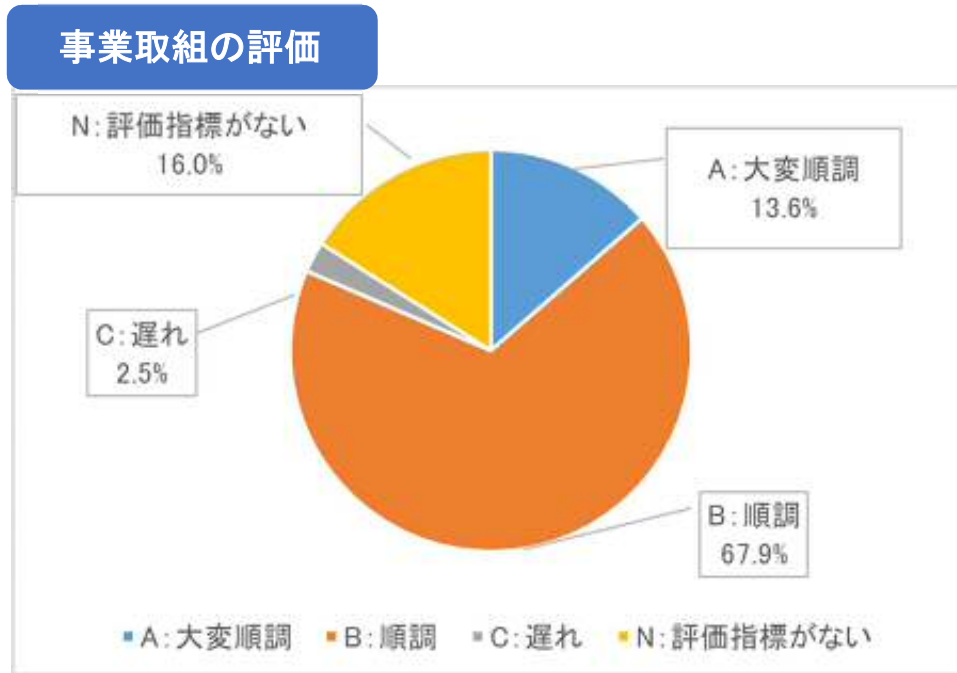
○特に効果があったもの

- ・固定価格買取制度（FIT）等により、太陽光発電事業の導入が促進され、再生可能エネルギーの導入量が増え、急速に事業が推進した。
- ・市民の3R活動によるごみの削減が大きく推進している。
- ・LEDの導入促進（道路照明）が推進され、CO2削減の取組みが進んでいる。

○事業の取組みが「遅れ」となったもの

- ・EV・FCV等の次世代自動車の普及啓発の推進を、国の計画に基づいて目標を設定して行ったものの、国全体として普及が遅れていることもあって、目標値まで届かない見込みとなった。
- ・港湾緑地の整備事業では、現在、護岸工事の事業が完了していないため、緑地整備事業に着手することができず、目標の達成には至らなかった。

表 3



※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

4 各部門ごとの取組み評価

(1) 家庭部門 (18 事業)

- ・家庭部門 18 事業のうち、「A:大変順調」が 1 事業 5.6%、「B:順調」が 15 事業 83.3%、「N:評価指標がない」ものが 2 事業 11.1%となっている。

表 4 評価割合

評 価		事業数	割合
A	大変順調	1	5.6%
B	順調	15	83.3%
C	遅れ	0	0.0%
N	評価指標がない	2	11.1%
合 計		18	100.0%

表 5 事業別の取組評価

No	計画記号	対策（事業）名	評価	評価理由
1	(1)-(a)-1	城野ゼロ・カーボン先進街区形成事業	B	長期優良住宅の認定件数達成
2	(1)-(a)-2	市営住宅整備事業	B	バリアフリー住戸の供給率R1目標36%達成
3	(3)-(a)-1	持続可能な開発のための教育(ESD)の推進	B	北九州ESD協議会による市民、企業、大学との連携
4	(3)-(a)-10	北九州の企業人による小学校応援団	B	公益財団法人北九州活性化協議会（KPEC）との連携による事業実施
5	(3)-(a)-3	北九州環境みらい学習システム推進事業	B	エコツアー、HP・SNS・ガイドブックによる広報
6	(3)-(a)-4	環境ミュージアムの活用推進	B	イベント、出張ミュージアムの実施
7	(3)-(a)-5	北九州市環境首都検定の定着	B	市民の意識向上及び周知啓発活動
8	(3)-(a)-6	小学生への環境教育推進	B	「環境教育副読本」「みどりのノート」による小中学生への環境教育
9	(3)-(a)-8	SDGs教育推進事業 (旧ユネスコスクール推進指定校事業)	B	校を指定、環境教育の充実を図る
10	(4)-(a)-10	家庭におけるエコライフの推進	N	エコチェックシートの活用による啓発活動の実施
11	(4)-(a)-2	ていたんポイント事業による環境活動の促進	B	環境活動のポイント化による周知啓発
12	(4)-(a)-3	ていたんコンテスト (旧 省エネ王コンテスト)	B	小学生を対象とした省エネ啓発の実施
13	(4)-(a)-4	エコライフステージの充実	A	エコライフステージの開催、リターナブル食器の利活用
14	(4)-(a)-5	出前講座	B	市民センターや企業等での講演の実施
15	(4)-(a)-6	北九州市環境衛生総連合会の取組	N	ごみステーション維持管理、まち美化等環境活動の展開
16	(4)-(a)-7	NPO等と行政の協働の推進	B	環境保全活動の実施
17	(4)-(a)-9	ノーマイカーデー	B	ポスター等周知啓発、参加企業数の目標達成
18	(5)-(a)-1	「北九州方式生ごみ堆肥化事業」の推進	B	JICA等の国際機関との連携により着実に進捗している

(2) 業務部門 (25 事業)

- ・業務部門 25 事業のうち、「A: 大変順調」が 6 事業 24.0%、「B: 順調」が 16 事業 64.0%、「N: 評価指標がない」ものが 3 事業 12.0%となっている。

表 6 評価割合

評 価		事業数	割合
A	大変順調	6	24.0%
B	順調	16	64.0%
C	遅れ	0	0.0%
N	評価指標がない	3	12.0%
合 計		25	100.0%

表 7 事業別の取組評価

No	計画 記号	対策 (事業) 名	評価	評価理由
1	(1)-(b)-10	水道施設における省エネルギー対策	A	配水ブロックの改善による送水エネルギーの削減
2	(1)-(b)-12	ごみ焼却工場における廃棄物発電及び 基幹的設備改良	A	熱源からの電力回収の推進
3	(1)-(b)-13	ヒートアイランド対策に効果のある 舗装の導入	N	計画策定後に舗装する道路について舗装未了
4	(1)-(b)-2	市営住宅長寿命化事業	B	長寿命化計画の充実・推進
5	(1)-(b)-3	直結式給水の普及促進	B	PR及び助成によりCO2排出削減効果がある
6	(1)-(b)-4	北九州市建築物総合環境性能評価制度 (CASBEE北九州普及促進事業)	B	環境に配慮した建築物の整備促進
7	(1)-(b)-6	水道施設における小水力発電の導入	A	4 施設において小水力発電を実施
8	(1)-(b)-7	水道施設への太陽光発電システムの導入	B	FITの活用による再エネ推進
9	(1)-(b)-8	下水道施設への太陽光発電システムの 導入	N	設置予定施設の耐震化事業を実施中のため、太陽光 発電システム設置を延期
10	(1)-(b)-9	学校施設太陽光発電導入事業	B	改築のタイミングで太陽光発電を導入
11	(2)-(b)-1	北九州市役所環境・エネルギー プロジェクト推進事業	B	市有施設の省エネ推進
12	(2)-(b)-3	エコアクション 21 の普及促進	B	総合相談、セミナー開催による事業者支援
13	(2)-(b)-4	中小企業高度エネルギーマネジメント推進支援事業 (旧 中小企業省エネ設備導入促進事業)	B	工場や事業所の省エネ推進
14	(2)-(b)-6	LEDの導入推進 (道路照明)	A	既設及び新設の道路照明にLEDを本格導入し、 温室効果ガス排出削減
15	(2)-(b)-7	防犯灯LED化推進	A	防犯灯LED化率達成
16	(2)-(b)-8	新エネルギー等導入促進 (民生用太陽光発電の導入等支援)	A	事業者への導入促進・PR
17	(3)-(b)-1	市民センターの省エネルギー化の推進	B	LED化及び空調の省エネ化
18	(3)-(b)-3	北九州市立大学等における環境人材の 育成	B	「大学コンソーシアム関門」でのESD等の 共同授業の実施等
19	(4)-(b)-1	グリーン電力普及拡大事業	B	グリーン電力証書化推進
20	(4)-(b)-2	北九州市環境モデル都市地域推進会議 登録団体支援事業	B	登録団体への環境事業の周知啓発
21	(4)-(b)-3	上下水道局環境会計	N	環境対策に対する情報提供を継続実施
22	(4)-(b)-5	環境首都レポートの発行等	B	環境首都レポート発行及びHP公開
23	(4)-(b)-6	環境広報の推進	B	環境マスコットキャラクターによるPR、 ていたんプレスの発行
24	(4)-(b)-7	小国町との連携事業の企画、実施	B	モデル都市連携からSDGs地域連携へと発展
25	(5)-(b)-1	アジアの環境人材育成拠点形成事業	B	JICAや国と連携して、環境人材育成のための 国際研修を実施

(3) 運輸部門 (11 事業)

- ・運輸部門 11 事業のうち、「B:順調」が9事業 81.8%、「C:遅れ」が1事業 9.1%、「N:評価指標がない」ものが1事業 9.1%となっている。

表 8 評価割合

評 価		事業数	割合
A	大変順調	0	0.0%
B	順調	9	81.8%
C	遅れ	1	9.1%
N	評価指標がない	1	9.1%
合 計		11	100.0%

表 9 事業別の取組評価

No	計画記号	対策（事業）名	評価	評価理由
1	(1)-(c)-1	公共交通の利便性の向上	B	徒歩・自転車への利用転換への交通体系の整備
2	(1)-(c)-10	低炭素まちづくり計画の策定	N	計画に即して事業を実施
3	(1)-(c)-2	駅前広場の整備	B	小倉都心部・黒崎副都心部のにぎわいづくり 黒崎駅南北自由道路の整備完了
4	(1)-(c)-3	公共交通の利用促進に向けた市民の意識啓発	B	交通事業者と連携したイベントへの出展や マップの作成
5	(1)-(c)-4	EV・PHVの普及促進	C	国の計画に合わせて策定したが目標未達となる見込み
6	(1)-(c)-5	ROROターミナルの機能強化	B	航路誘致のため補助対象をを内航RORO航路 拡大、現在4航路
7	(1)-(c)-6	バリアフリー化の推進、都市計画道路の整備	B	戸畑枝光線の整備（渋滞緩和、公共交通利用 促進）、道路空間有効活用（バリアフリー化）
8	(1)-(c)-7	自動車交通の円滑化の推進	B	環状放射型自動車専用道路ネットワークの整備
9	(2)-(c)-1	水素エネルギー社会構築推進事業	B	視察対応やイベント出展等PR
10	(2)-(c)-2	家庭系廃食用油回収システムの確立、 BDF自動車の走行	B	廃食用油をごみ収集車、市営バスのバイオ ディーゼル燃料として再利用
11	(4)-(c)-1	エコドラ北九州プロジェクト	B	HP等周知啓発、セミナーの開催、 参加事業者数の拡大（R2現在101社）

(4) 産業部門 (10 事業)

- ・産業部門 10 事業 (再掲 1 事業含む) のうち、「A : 大変順調」が 2 事業 20.0%、「B : 順調」が 8 事業 80.0%となっている。

表 10 評価割合 (再掲 1 事業含む)

評 価		事業数	割合
A	大変順調	2	20.0%
B	順調	8	80.0%
C	遅れ	0	0.0%
N	評価指標がない	0	0.0%
合 計		10	100.0%

表 11 事業別の取組評価 (再掲 1 事業含む)

No	計画 記号	対策 (事業) 名	評価	評価理由
1	(1)-(d)-1	生産プロセスの改善による省エネルギー 推進	A	1,338万 t-CO2 (H26年度) から1,105万 t-CO2 (H29年度) に減少
2	(2)-(d)-2	エコアクション21の普及促進【再掲】	B	総合相談、セミナー開催による事業者支援
3	(2)-(d)-3	建設リサイクルの推進	B	再資源化率目標 (R2) 98%の達成 (R1実績99.3%)
4	(2)-(d)-5	北九州エコプレミアム	A	効果的なPRによる認定企業増加傾向 (217社)
5	(2)-(d)-8	地域エネルギー拠点化推進事業 (地域エネルギーマネジメント)	B	エネルギーマネジメント (北九州パワー) に よる需給調整の推進
6	(3)-(d)-1	次世代エネルギーパーク構想推進事業	B	多種多様なエネルギー関連施設の運営、 PR (施設見学)
7	(4)-(d)-1	環境産業ネットワーク形成事業	B	R1年度現在、558事業が参加。毎年セナ- 2回開催により、ネットワーク形成を促進
8	(5)-(d)-1	グリーン成長政策の普及、 日中大気汚染・省エネ対策共同事業	B	アジア地域におけるグリーン成長政策の普及 を推進
9	(5)-(d)-2	アジア低炭素化センター推進事業	B	プロジェクト推進数の増加、外部資金総額の増加
10	(5)-(d)-4	循環型都市協力事業での 「エコタウン」協力	B	都市間連携協力を 6 都市と実施

(5) その他 (18 事業)

(エネルギー転換、工業プロセス、廃棄物、森林吸収対策)

- ・その他部門 18 事業のうち「A:大変順調」が 2 事業 11.1%、「B:順調」が 8 事業 44.4%、「C:遅れ」が 1 事業 5.6%、「N:評価指標がない」ものが 7 事業 38.9%となっている。

表 12 評価割合

評価		事業数	割合
A	大変順調	2	11.1%
B	順調	8	44.4%
C	遅れ	1	5.6%
N	評価指標がない	7	38.9%
合計		18	100.0%

表 13 事業別の取組評価

No	計画記号	部門	対策 (事業) 名	評価	評価理由
1	(1)-(e)-1	エネ転	市民太陽光発電所建設	A	予定発電 (1,894MWh) を毎年達成
2	(2)-(e)-2	エネ転	地域エネルギー拠点化推進事業 (高効率火力発電)	B	バイオマス発電の推進 (バイオマス・石炭混焼発電所)
3	(2)-(e)-3	エネ転	地域エネルギー拠点化推進事業 (洋上風力)	B	アセスメント、住民説明、PR等の事業者支援
4	(1)-(g)-1	廃棄物	下水汚泥の高度利用による省資源化システム構築	B	汚泥燃料化による石炭代替CO2削減
5	(2)-(g)-1	廃棄物	浄水汚泥の有効活用	B	リサイクル率100%を達成
6	(2)-(g)-2	廃棄物	小型電子機器等のリサイクル	N	東京オリンピック・パラリンピックでのレアメタルの活用等
7	(4)-(g)-1	廃棄物	市民によるリサイクル活動の推進及び家庭ごみの減量	A	食ロス、3R活動等ごみの減少の取組み
8	(1)-(h)-1	森林	「緑の基本計画」の策定	B	計画に即して事業を実施
9	(1)-(h)-2	森林	まちの森プロジェクト及び響灘鳥がさえずる緑の回廊創成事業	B	環境首都100万本植樹プロジェクト (704,724本 (H30.4現在))
10	(1)-(h)-3	森林	国による森林吸収源対策の推進	B	国の計画に合わせて策定 (荒廃森林再生事業を含む)
11	(1)-(h)-4	森林	港湾緑地の整備推進	C	現在、護岸整備事業がされているため、緑地整備事業が進んでいない
12	(3)-(h)-1	森林	長野緑地「市民参加による農業体験教室」	B	「長野ふれあい村」での農業体験イベントの開催
13	(3)-(h)-2	森林	ほたるのふるさとづくり(ほたる塾)	N	ほたるサミット開催、ほたる育成助成、ほたるアドバイザーの育成
14	(3)-(h)-4	森林	到津の森公園学習プログラム	N	継続して小学生を対象とした学習プログラムの実施
15	(3)-(h)-5	森林	「わさび」の栽培・「やまめ」の飼育 (井出浦浄水所)	N	安定した育成を行いPR活動を推進
16	(4)-(h)-1	森林	水源地交流事業	N	植樹及び水源地の整備による環境保全活動
17	(4)-(h)-2	森林	自然環境アドバイザー制度運営事業	N	人材育成及び啓発活動の実施
18	(4)-(h)-3	森林	自然環境情報の蓄積と保全対策などでの活用	N	保全活動やツアー型学習会の実施

※エネ転・・・エネルギー転換